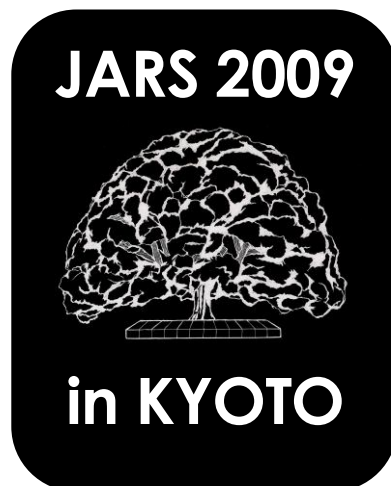


日本宗教学会 第 68 回学術大会

2009 年 9 月 11 日～13 日



京都大学（吉田キャンパス）

【11 日会場】本部構内 【12・13 日会場】吉田南構内

「お知らせ」と「お願い」

1. 受付手続きの際、必ず名札をお受け取り下さい。名札は、常に身に付け、お帰りの際にはご返却下さい。
2. 受付には、学会本部が出張しております。学会費未納の方はお納め下さい。
3. **発表題目、パネル構成員の変更は一切認められません。**プログラムと同一にして下さい。
4. 発表者は、発表の2番前に、発表会場の「発表者待機席」においで下さい。
・申し込み時に、パワーポイント、OHP、スライドの使用を申請された方へ
個人発表は発表の2人前、パネル発表は開始20分前までに、会場係にお申し出下さい。
5. 発表時に配布するレジюме・資料は、余裕をもってご用意の上、会場係にお渡し下さい。
6. **発表時間は以下のように構成されます。時間厳守でお願いします。**
・個人発表 発表15分、質問5分、計20分（初鈴13分、二鈴15分、三鈴20分）
・パネル発表 「発表者数×5分」をフロアからの質問時間として確保下さい。
それ以外の時間配分は、パネル運営者にお任せします。
7. 発表会場間の移動及び、プロジェクターなど機器の設置に時間が必要なことを加味して、個人発表終了後に5分間の休憩時間を設けています。この5分間を議論の延長などに使うことのないようお願いいたします。
8. 万が一、発表取り消しがあった場合でも、その後の発表を詰めて行うことなく、予定時間通りに、発表して頂きます。
9. **個人発表のレジюме（表紙・本文）・電子データについて**
提出先：部会責任者。本冊子21頁の表紙に必要な事項を記入し、本文と一緒にご提出下さい。
レジюмеは、紙原稿の他に、電子データの提出をお願いしています。
詳細は、20頁の「レジюмеの作成と提出の注意」をご覧ください。
10. **パネル発表のレジюме（表紙・本文）について**
20頁の「レジюмеの作成と提出の注意」に従って作成して下さい。
発表者のレジюме（紙原稿と表紙）は、代表者がとりまとめて、大会最終日までに、部会責任者にご提出下さい。
電子データも、代表者が全員分をとりまとめて、9月18日までに、メールで学会事務局にご送信下さい。
代表者は、「パネルの主旨とまとめ」（パソコン原稿：1行40字×40行）と「パネルの欧文タイトル」を、9月末日までに、学会事務局にご送信下さい。
11. 日本語が母語でない方へ レジюмеは、必ず、日本語上の精査を受けた上で、ご提出下さい。
12. 所定の場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

受付	11日	百周年時計台記念館	1階
	12・13日	吉田南1号館	地階
会員休憩室	12・13日終日	吉田南1号館	地階 1共04
	12・13日午後	吉田南総合館西棟	1階 共西11
クローク	11日	吉田南1号館	地階 1共02
	12・13日	吉田南1号館	地階 1共03
学会本部		吉田南1号館	地階 1共01
大会実行委員会		吉田南1号館	地階 1共02

大会日程

9月11日(金)

学会賞選考委員会	文学部新館 2階 第4 演習室	11:30~13:00
庶務委員会	文学部新館 2階 第2 演習室	13:00~14:30
国際委員会	総合研究2号館 地階 第9 演習室	13:00~14:30
情報化委員会	総合研究2号館 1階 第11 演習室	13:00~14:30
宗教文化士(仮称)検討委員会	総合研究2号館 地階 第12 演習室	13:00~14:30
開会式	百周年時計台記念館 百周年記念ホール	14:30~14:40
公開シンポジウム テーマ「思想としての宗教」 講演 高田信良(龍谷大学) 杉村靖彦(京都大学) 西平 直(京都大学) コメントータ 深澤英隆(一橋大学) 司会 氣多雅子(京都大学)	百周年時計台記念館 百周年記念ホール	14:40~17:40
理事会	文学部新館 2階 第3 講義室	18:00~20:30

9月12日(土)

研究発表(個人)	吉田南構内各会場	9:00~12:40
評議員会	文学部新館 2階 第3 講義室	12:40~14:00
研究発表(パネル)	吉田南構内各会場	14:00~16:00
会員総会	文学部新館 2階 第3 講義室	16:20~17:40
懇親会	生協吉田食堂 1階	18:00~20:00

9月13日(日)

研究発表(個人)	吉田南構内各会場	9:00~12:15
編集委員会	総合研究2号館 1階 第10 演習室	12:15~13:00
プログラム委員会	総合研究2号館 1階 第11 演習室	12:15~13:00
研究発表(パネル)	吉田南構内各会場	13:00~17:15

公開シンポジウム

「思想としての宗教」

趣旨

宗教はさまざまな現れ方をするが、思想もその一つである。思想ということによって生み出されたもの一般という広い意味でとるならば、そこにはさまざまな位相とさまざまなレベルがある。歴史的諸宗教がそれぞれ承け伝えている聖典には、その宗教をその宗教たらしめる思想が内蔵されている。そして、その聖典をどのように解釈するかをめぐってさらに多くの思想が生み出されてきた。多くの思想が生み出され、積み重ねられてゆくことは、教えが人々に承け伝えられてゆく道程であり、そこに私たちは宗教的思惟の豊かな果実を見出すことができる。このような歴史的諸宗教の思想的展開は神学ないし教学という学問の形態を発展させてきたが、その一方で、思考そのものの普遍性に軸足を置く哲学という学問の形態とも結びついてきた。哲学と宗教の関係の様相は各伝統によって大きな違いがあるが、歴史を遡れば遡るほど、密接な関係があることはどの伝統でも言えることであろう。しかしまたその一方で、神学や哲学というような形態をとらない宗教的思惟の形態もある。それは学的な普遍性へと出て行かないだけに、個人的な宗教体験のなまの思想性とでもいうべきものをうかがわせて興味深い。

このテーマの基礎には、考えるということが宗教においてどういう位置を占め、どういう役割を果たすのか、という問題が潜んでいる。これまで一般に、思考（思惟、思索）は宗教の主要な特徴としては捉えられてこなかった。宗教を特徴づけるものとして主題化されたのは、信仰であったり、直観や感情や体験であったり、儀礼や祈りであったりするが、思考は知と結びついて、むしろそれらに対置されるものと見なされてきた。思考がもはや及ばないところ、人間の知性・理性が挫折するところこそ、宗教の領域だというわけである。しかしもしそうであるとしても、そこがもはや思考の及ばないところであると言えるのは、思考を尽くしてこそである。宗教という事象は、考えるということが実に多彩な営みであることを私たちに教えてくれる。特に考える営みの多彩さが平準化され、入信とは思考停止であると考えられる人々が多い現代の思想状況を鑑みると、宗教が思考に対してもたらす豊かな可能性に改めて目を向けるためにも、「思想としての宗教」というテーマを取り上げることは重要な意義があると考えられる。

発題タイトルと要旨

宗教としての〈親鸞〉思想

高田信良（龍谷大学）

- 1 「宗教」：一定の信のもとに生きる人々の共同体・運動態。仏教：「仏・法・僧」への帰依(三帰)、イスラーム：「神の他に神なし、ムハンマドは神の使徒なり」、キリスト教：「ナザレのイエス、神の子・救い主」との〈信〉告白のもとに生きる人々の共同体。
- 2 「思想」：「宗教以前」の〈私〉が「宗教の中に生きている」ことを発見するところに思索がはたらいっている。〈本願との出遇いを聞思する思索〉 fides quaerens intellectum
- 3 〈親鸞〉思想：親鸞の「本願・念仏・信心」理解、「聞思」の内実。歴史上の親鸞が、最初の〈親鸞〉思想の担い手であり、親鸞に出遇って念仏者となる人々（歴史的〈真宗〉共同体に集う人々）が次なる〈親鸞〉思想の担い手。そのような人々が連綿と生まれ続ける力を与えているのが親鸞の「聞思」の思索。
- 4 「宗教としての〈真宗〉運動態」：親鸞に出遇って念仏者となる人々、親鸞と一味の「信心」理解を生きる念仏共同体。「報恩講」を営み「正信偈」を唱和する。「正信偈」を唱える主体（一人称の主語）は、歴史上の親鸞であり、また、一人一人の念仏者である。親鸞と共に「もつぱらこの行に奉効へ、ただこの信を崇め」る人々。
5. 親鸞・生涯の歩み、〈真宗〉運動態の形成
1201年(29歳)法然との出遇い「愚禿釈の鸞、建仁辛酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す」
1207(35)専修念仏停止・流罪、越後へ。(赦免) 関東へ。「善光寺勸進聖」説(平松令三氏)
1214(42)上野佐貫「千部読誦」途中中止(恵信尼消息)。常陸へ
1224(52)「元仁元年」仏滅年代算定に関する記述。この頃『教行信証』の原型(構想)
☆「門弟」たち：(後)高田門徒(真仏、顕智)・横曽根門徒(性信)など。
〈1232(60)〉頃、関東を離れて京都へ：途上、数々の出遇い、帰依する人々。
1248(76)『浄土和讃』『高僧和讃』と「正信偈」：基本的に同じ構成(体系性)。
☆「聞思」の論理的反省に基づく叙述(生涯つづけられている)。
1258(86)『正像末和讃』。
1262(90)寂。
★覚如・存覚・蓮如、江戸期：学林／宗学、妙好人、明治期以降。

〈ポスト哲学的〉思索と〈宗教的なもの〉—現代フランス哲学と京都学派の哲学から—

杉村靖彦（京都大学）

思想（思索）にとって宗教とは何であるのか。宗教哲学を、単に宗教研究の一方法としてではなく〈哲学〉として見た場合、この問いは歴史的に大きな意味を持っている。西洋的な意味での哲学が磨き上げてきた〈始原(原理)〉に関する思索は、宗教と根本的問いを共有し、宗教に養われると同時に宗教との厳しい緊張関係の中で練成されてきた。だが、近世以降、哲学は宗教との密接な連関において獲得してきた思索を内面化していき、その自立性を確固たるものとしていった。啓蒙の世紀の産物として登場した宗教哲学もまた、そうした条件の下で成り立ちえたのだと言える。

だが、20世紀以降の現代において、従来哲学という名で行われてきた思索の存立可能性を根底から問い質しつつ、自己解体的に展開していく哲学、その意味で〈ポスト哲学的〉と呼べるような哲学が台頭してきた。その中でもっとも強い影響力を持つのはハイデガーであろうが、ハイデガーの批判的継承を通してそうした思索をユニークな仕方ですらに先鋭化していったのが、レヴィナスやデリダ、リオタール、アンリといった現代フランスの代表的な哲学者たちである。彼らは哲学自体の解体的批判をハイデガー以上に徹底化・具体化しつつ、なお哲学の原理的思索の何事かを引き継いでいこうとするのであるが、きわめて興味深いことに、そうした企てのために、各々独自の仕方でも〈宗教的〉な着想や術語を大胆に換骨奪胎して再活用している。これはいかなる思索であるのか。彼らは何をしようとしているのか。このような思索にいかなる意味があるのか。

この問題を巨視的な視点から捉えると同時に、日本の宗教哲学の蓄積と連関づけて考究するために、西田、田辺、西谷等の京都学派の哲学との突き合わせを試みたい。上記の観点から見返すならば、京都学派の宗教哲学もまた、〈宗教的なもの〉の換骨奪胎と再活用による〈ポスト哲学的思索〉であると言えるのではないか。そのような見通しの下で、「証言」（現代フランス哲学）と「自覚」（京都学派の哲学）という二つの概念に注目し、その成り立ちと潜勢力を探ってみたい。各々の側にとって、それらは思索がそれ自体を立ち上げる〈仕方〉を示す自己言及的で行為遂行的な概念であると言えようが、この初発段階で〈宗教的〉含意を背負った語が選ばれていることの意味が問題になるであろう。

「際(きわ)」に立つ。外側から近づいて際に立ち、内側から出ようとして際に立つ。宗教の際に立つて「悩む」という仕方で考えてきたことの小さな報告である。

第一は、子どもの「無心」。子どもの方が無心である。そう聞かされて育つ子どもは、自らの成長に対してアンビバレントである。成長するとは無心でなくなる。純粋でなくなる。「ずるく」なること。気づいてしまったらもはや無心になれない。「わざと」になる。素直に信じる「幼子のような信仰」。今ここに囚われずに生きる。そうした理念の問題。

第二、信仰の絶対性。排他性と寛容の問題。「信仰は望むところを確信し、見ぬ物を真実(まこと)とするなり」。既に真理を得たという確信。ならばこそ、それを未だ知らざる隣人に分け与える。その熱き使命感に「伝道・宣教」の灯がともる。対話ではない。絶対的真理を宣べ伝える。そこに不可避免的に含まれる排他性の問題。では我が信仰の真理を認めつつ、相手の信仰の真理も同時に認めることは可能なのか。アイデンティティの問題。寛容の問題。そして、おそらく「宗教多元主義」の問題。

第三、悲しみへの感受性の問題。「幸せになるのに宗教はいらない」。明るく笑ってそう語る「元気で前向きな若者たち」にとって宗教とは何か。例えば、「他者の痛み・弱さ・苦しみ」への感受性。それは「前向き」に生きることと逆方向なのか。悲しみへの感受性とは、生きにくさを背負うということなのか。そして、無心に生きるということは、悲しみの感受性とどうつながるのか。

第四、「抵抗の拠点」の問題。例えば、不正に対して立ち向かう。差別に対して自己正当化を余儀なくされる。護るべきことは護る。そうした「抵抗する自己」は「我執性」を免れうるか。社会的不正に対して「抵抗する主体」は、無心でありうるか。社会的現実において無心に生きるとはどういうことか。内面への沈潜と他者の問題。あるいは、霊性と倫理の問題。

個人史の中に生じた、こうした「プリミティブな困惑(なまの問い)」が、宗教研究の深遠な学識と、どこで、どのように接続するのだろうか。

第1部会

吉田南総合館西棟 共西41教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------------|--------------|
| 1. 9:00-9:20 | イタリア宗教史学派の形成 | 江川 純一 (宇都宮大) |
| 2. 9:25-9:45 | オットー宗教史学の方法論再考 | 澤井 義次 (天理大) |
| 3. 9:50-10:10 | ド・ブロスにおける宗教起源と言語起源の問題 | 杉本 隆司 (一橋大) |
| 4. 10:15-10:35 | デュルケームとモースの「隠された共同作業」—供犠論の生成— | 山崎 亮 (島根大) |
| 5. 10:40-11:00 | M. エリアーデとルーマニア民族主義 | 佐藤慎太郎 (東北大) |
| 6. 11:05-11:25 | 往復書簡集からみる I. P. クリアーノと M. エリアーデの関係 | 佐々木 啓 (北大) |
| 7. 11:30-11:50 | 亡命者エリアーデの思想における「宗教」 | 奥山 史亮 (北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教における思考と感謝 | 浅野 章 (日大) |
| 9. 12:20-12:40 | 宗教共同体の哲学的考察 | 小田 淑子 (関西大) |

【午後】

日本宗教研究諸学会連合共催

- | | | |
|-------------|-------------------------------|---------------------|
| パネル | 戦前までの日本における諸宗教研究の現在的意義 | 代表者：星野 英紀, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 戦前日本における中国宗教研究 | 菊地 章太 (東洋大) |
| | 戦前日本における仏教研究 | 下田 正弘 (東大) |
| | 戦前日本におけるキリスト教研究 | 芦名 定道 (京大) |
| | 戦前日本におけるイスラーム研究 | 後藤 明 (東洋大) |
| | | コメンテータ：関 一敏 (九大) |
| | | 司会：星野 英紀 (大正大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 祈りにおける「かたどり」と「ちから」—レーウの宗教論から— | 木村 敏明 (東北大) |
| 2. 9:25-9:45 | G. サンタヤーナにおける自然主義と宗教 | 庄司 一平 (東北生活文化大) |
| 3. 9:50-10:10 | 《概念枠》としての宗教理解を巡って | 飯田 篤司 (鎌倉女子大) |
| 4. 10:15-10:35 | 創造論の言説—その科学的根拠について— | 十津 守宏 (鈴鹿短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 科学と宗教とが扱う領域の相異について | 冲永 宜司 (帝京大) |
| 6. 11:05-11:25 | 日本における公共宗教(論)の射程 | 新矢 昌昭 (佛教大) |
| 7. 11:30-11:50 | 宗教概念にまつわる言説空間—現代日本の場合— | 近藤 光博 (日本女子大) |
| 8. 11:55-12:15 | 二分法のほぐし方 | 関 一敏 (九大) |

【午後】

日本学術会議哲学委員会「哲学・倫理・宗教教育分科会」共催

- | | | |
|-------------|---------------------------------|--------------------|
| パネル | 見える宗教教育・見えない宗教教育—宗教教育再考— | 代表者：山中 弘, 6名, 120分 |
| 13:00-15:00 | 海外の公教育における宗教教育の現状と日本への示唆 | 藤原 聖子 (大正大) |
| | 公認宗教制の中の宗教教育—タイにおける公教育の事例から— | 矢野 秀武 (駒大) |
| | 高校の教科書に見られる「仏教」について | 江田 昭道 (教学伝道研究センター) |
| | 「心のノート」の可能性と限界—官製スピリチュアルのほころび— | 弓山 達也 (大正大) |
| | | コメンテータ：土屋 博 (北大) |
| | | 司会：山中 弘 (筑波大) |

- | | | |
|-------------|------------------------------------|-----------------------|
| パネル | 生命倫理の問題は宗教および宗教学に何を問いかけるのか？ | 代表者：安藤 泰至, 5名, 120分 |
| 15:15-17:15 | キリスト教において生命倫理を語る可能性 | 土井 健司 (関西学院大) |
| | 「宗教家」の生命倫理への取り組み—仏教の立場から— | 佐藤 雅彦 (大正大) |
| | 宗教的な問いは宗教抜きには問えないのか？ | 森岡 正博 (大阪府立大) |
| | 生命倫理という宗教性—中国の事例をめぐる初歩的検討— | 池澤 優 (東大) |
| | | コメンテータ・司会：安藤 泰至 (鳥取大) |

第2部会

吉田南総合館西棟 共西 42 教室

12日(土)

【午前】

- | | |
|---|----------------|
| 1. 9:00-9:20 「プロテスタンティズムの哲学者カント」説の成立背景 | 後藤 正英 (佐賀大) |
| 2. 9:25-9:45 ドストエフスキーとカント | 元春 智裕 |
| 3. 9:50-10:10 カント『宗教論』における「根本悪」の普遍性 | 保呂 篤彦 (筑波大) |
| 4. 10:15-10:35 カントの宗教論の意義について | 氷見 潔 (鈴鹿国際大) |
| 5. 10:40-11:00 ヤスパース形而上学とその希望論 | 岡田 聡 (早大) |
| 6. 11:05-11:25 ヤスパースにおける存在の思弁 | 布施 圭司 (米子工業高専) |
| 7. 11:30-11:50 脱宗教的精神性としてのヤスパース「哲学的信仰」 | 大沢 啓徳 (早大) |
| 8. 11:55-12:15 『二源泉』以前のベルクソン哲学における宗教性 | 伊達 聖伸 (東北福祉大) |
| 9. 12:20-12:40 ベルクソン形而上学の宗教的志向性—『二源泉』以前の展開— | 安藤 恵崇 (高知大) |

【午後】

パネル	宗教哲学の現在を問う—反本質論の波をうけて—	代表者：堀 雅彦, 5名, 120分
14:00-16:00	宗教哲学は本質論を離れうるか—多元主義の観点から—	堀 雅彦 (札幌学院大)
	「宗教の本質」と歴史性—トレルチによるオットー批判より—	小柳 敦史 (京大)
	神経科学の冒険—思考実験と宗教哲学の可能性—	松野 智章 (大正大)
	他性と多性—他者の哲学/哲学の他者としての宗教哲学—	佐藤 啓介 (聖学院大)
	コメンテータ：深澤 英隆 (一橋大)	
	司会：佐藤 啓介 (聖学院大)	

13日(日)

【午前】

- | | |
|---|------------------|
| 1. 9:00-9:20 プラトン『法律』第10巻における魂の問題 | 土井 裕人 (日本学術振興会) |
| 2. 9:25-9:45 プロティノス哲学体系にみられる愛の階梯 | 堀江 聡 (慶大) |
| 3. 9:50-10:10 紀元後4-5世紀の歴史叙述における「過てる哲人王」ユリアヌス | 中西 恭子 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 擬ディオニュシオス・アレオバギテースのキリスト像 | 高橋 渉 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 転回と回心—バルトとアウグスティヌスの場合— | 松田健三郎 (天理大) |
| 6. 11:05-11:25 進化における宗教の問題 | 滝澤 克彦 (東北大) |
| 7. 11:30-11:50 「信」と「虚構」に関する理論的研究—分析哲学を手がかりに— | 谷内 悠 (東大) |
| 8. 11:55-12:15 Philosophia perennis という概念の歴史の変遷をめぐる考察 | リアナ・トルファシュ (筑波大) |

【午後】

パネル	西田幾多郎の宗教思想	代表者：藤田 正勝, 6名, 120分
13:00-15:00	西田幾多郎の宗教思想の特質	小坂 国継 (日大)
	西田の宗教思想とキリスト教的終末論	浅見 洋 (石川県立看護大)
	西田哲学と禅仏教	井上 克人 (関西大)
	内在的超越の宗教観—東アジアの宗教との対比において—	高坂 史朗 (大阪市立大)
	コメンテータ：森 哲郎 (京都産業大)	
	司会：藤田 正勝 (京大)	

パネル	近角常観とその時代	代表者：岩田 文昭, 5名, 120分
15:15-17:15	近代真宗の体験主義—近角常観とその信徒たちの信仰—	碧海 寿広 (宗教情報リサーチセンター)
	近角常観と知識人青年—三木清と武内義範—	岩田 文昭 (大阪教育大)
	近代大谷派における近角常観の位置	ライアン・ワールド (東大)
	求道会館所蔵史料の意義—整理作業中間報告—	大澤 広嗣 (東洋大)
	コメンテータ：島藺 進 (東大)	
	司会：岩田 文昭 (大阪教育大)	

第3部会

吉田南1号館 1 共 22 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | S. ヴェイユの工場体験 | 脇坂 真弥 (東京理科大) |
| 2. 9:25-9:45 | ジャック・デリダの「コーラ(場)」〈第三のもの〉を読む | 斎藤 明典 (阪大) |
| 3. 9:50-10:10 | ジャン・ナベールにおける悪の経験と宗教的意識の関係 | 山内 誠 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | L. シュトラウスによるF. ローゼンツヴァイク批判の射程 | 佐藤 貴史 (聖学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 『論理哲学論考』の「文番号七」の原形と新解釈 | 星川 啓慈 (大正大) |
| 6. 11:05-11:25 | ヘーゲル祭祀論の射程 | 石川 和宣 (京大) |
| 7. 11:30-11:50 | ヴァイマル期ドイツの宗教思想 | 宮嶋 俊一 (大正大) |
| 8. 11:55-12:15 | ティリッヒの「究極的関心」と真理 | 澤井 治郎 (東北大) |
| 9. 12:20-12:40 | テキスト科学とインド哲学研究の方法論について | 三浦 宏文 (東洋大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 再考ブーバー「我—汝」思想 | 堀川 敏寛 (京大) |
| 2. 9:25-9:45 | マルティン・ブーバーと神経論 | 大川 武雄 (早大) |
| 3. 9:50-10:10 | ポエジーと哲学—ドイツ初期ロマン主義の聖なるものへの関連— | 田口 博子 (工学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | フィヒテとシェリングにおけるヨハネ解釈について | 諸岡道比古 (弘前大) |
| 5. 10:40-11:00 | キルケゴール思想における罪の不可避性について | 行武 宏明 (東洋大) |
| 6. 11:05-11:25 | ハイデガーの現象学とキルケゴール | 若見 理江 (京都造形芸術大) |
| 7. 11:30-11:50 | ハイデガーと洞窟の比喩—哲学者の死について— | 田鍋 良臣 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | Sein zum Tode 再考—ハイデガー『存在と時間』と「死」の概念— | 松本 直樹 (京都府立医科大) |

第4 部会

吉田南総合館西棟 共西 21 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 近世初期キリシタンの長崎大殉教図と日西関係 | 谷口 智子 (愛知県立大) |
| 2. 9:25-9:45 | キリシタンにおける近世と近代 | 内藤 幹生 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | ブラジル産ネオペンテコスタリズムの日本における展開 | 山田 政信 (天理大) |
| 4. 10:15-10:35 | 田中輝義の意識論 | 寺尾 寿芳 (南山宗教文化研究所) |
| 5. 10:40-11:00 | 新渡戸稲造と国際交流 | 森上 優子 (お茶の水女子大) |
| 6. 11:05-11:25 | 聖書・学問・共同体—東京大学「矢内原忠雄展」からの一報告— | 柴田真希都 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | 遠藤周作の思想「母なるもの」再考 | 長谷川(間瀬) 恵美 (南山宗教文化研究所) |
| 8. 11:55-12:15 | 神谷美恵子の宗教思想—『生きがいについて』の射程— | 釘宮 明美 (白百合女子大) |
| 9. 12:20-12:40 | 内村鑑三と A. J. ヘッセル—楯円の一神教思想について— | 手島 勲矢 (同志社大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------------|
| パネル | キリスト教受容と伝統思想—武士道をめぐって— | 代表者：狭間 芳樹, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 | キリシタンと武士道 | 狭間 芳樹 (大谷大) |
| | 韓国の伝統思想とキリスト教 | 方 俊植 (京大) |
| | 内村鑑三の武士道 | 岩野 祐介 (関西学院大) |
| | 『武士道』にみる比較の言説 | 東馬場郁生 (天理大) |
| | | コメンテータ：浅野 淳博 (関西学院大) |
| | | 司会：岩野 祐介 (関西学院大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 回心の比較宗教—廻心とタウバー— | 徳田 幸雄 (日本学術振興会) |
| 2. 9:25-9:45 | ヘーシュカストの祈りににおける身体技法 | 袴田 玲 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 野宿者の入信動機—救世軍の事例から— | 白波瀬達也 (関西学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 「民衆」概念による近世フランス神秘主義へのアプローチ | 渡辺 優 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | ヴィジョンとイメージ | 細田あや子 (新潟大) |
| 6. 11:05-11:25 | マルグリット・ポレートに対する異端審問について | 村上 寛 (早大) |
| 7. 11:30-11:50 | シオランにおける無の位相と展開 | 藤本 拓也 (東大) |
| 8. 11:55-12:15 | 「関係」、「相続」、「あたかも」—エックハルトを中心に— | 高木 保年 (早大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------------------|-------------------------|
| パネル | キリスト教思想の新しい可能性—「宗教と科学」の問題圏より— | 代表者：芦名 定道, 6名, 120分 |
| 13:00-15:00 | 科学と神学—対話の地平— | 濱崎 雅孝 (京大) |
| | 美のアイデアと自然の神学—プラトン、数学、キリスト教— | 落合 仁司 (同志社大) |
| | 境界の脱構築—「生物学的統制の時代」におけるキリスト教— | 金 承哲 (金城学院大) |
| | 医学と宗教はどこで出会うのか—現代医学における宗教の意義— | 杉岡 良彦 (旭川医科大) |
| | | コメンテータ・司会：今井 尚生 (西南学院大) |

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 古代ギリシアにおける神聖 (hieros) 概念について | 葛西 康德 (大妻女子大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 古代ローマにおける religio 概念について | 小堀 馨子 (ロンドン大) |
| 3. 9:50-10:10 | パウロの宗教的自覚について | 南部千代里 (日大) |
| 4. 10:15-10:35 | 創世記1章1節は、その1章の表題か | 野口 誠 |
| 5. 10:40-11:00 | ヘブライ語聖書研究—社会科学批評によるアプローチ— | 高橋 優子 (立教大) |
| 6. 11:05-11:25 | 『啓蒙の弁証法』における反ユダヤ主義 | 内藤 李香 (早大) |
| 7. 11:30-11:50 | 改宗制度にみるユダヤ教のアイデンティティ定義 | 櫻井 丈 (東大) |
| 8. 11:55-12:15 | スピノザとユダヤ世俗主義—ヴァイレルのユダヤ神権政治より— | 平岡光太郎 (同志社大) |
| 9. 12:20-12:40 | ユダヤ教におけるギリシア文化の衝撃 | 市川 裕 (東大) |

【午後】

パネル	近世から近代へ—日本仏教の再編成—	代表者：西村 玲, 5名, 120分
14:00-16:00	近世真宗における「法然」と「親鸞」 分離せず、衝突せず—明治期の教育と仏教の一側面— 大乘非仏説論の歴史的展開—近世思想から近代仏教学へ— 〈日本仏教〉の探究—近代における宗門の再編成と歴史記述—	引野 亨輔 (福山大) 谷川 穰 (京大) 西村 玲 (東方研究会) オリオン・クラウタウ (東北大)
	コメンテータ・司会：林 淳 (愛知学院大)	

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 聖人の誕生—コプト・キリスト教を事例として— | 岩崎 真紀 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | クザーヌスにおける“神の名”の問題 | 島田 勝巳 (天理大) |
| 3. 9:50-10:10 | 永遠についての瞑想—時間と永遠をめぐる神学的哲学的考察— | 福嶋 揚 (青山学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 「アリア人イエス」の宗教史 | 久保田 浩 (立教大) |
| 5. 10:40-11:00 | ミシェル・アンリの「キリスト教の哲学」におけることばの問題 | 古荘 匡義 (京大) |
| 6. 11:05-11:25 | ヨーロッパ・キリスト教の「信」—坂口ふみ氏の考察を踏まえて— | 若林 裕 (同志社大) |
| 7. 11:30-11:50 | トマス・ベリー—神父にみる自然と身体—大いなる業のために— | 木村 武史 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | 正義と配慮—近代カトリック世界における「倫理」的活動の展開— | 寺戸 淳子 (専修大) |

【午後】

パネル	明治仏教の国際化と変貌	代表者：吉永 進一, 5名, 120分
13:00-15:00	明治20年代仏教界における神智学をめぐる言説 明治期仏教とユニテリアニズム—佐治実然を手がかりに— エリザベス・アンナ・ゴルドン夫人をめぐる 鈴木大拙における東洋と西洋—在米中の思想変遷を中心に—	吉永 進一 (舞鶴工業高専) 高橋 原 (東大) 安藤 礼二 (多摩美術大) 守屋 友江 (阪南大)
	コメンテータ：石井 公成 (駒大) 司会：吉永 進一 (舞鶴工業高専)	

パネル	明治仏教史を上書きする	代表者：大谷 栄一, 5名, 120分
15:15-17:15	“仏教”を“演説”する 演説・講演というメディアと近代仏教—啓蒙から修養へ— 前田慧雲と「自由討究」—本願寺教団の対応と宗学研究法— 高嶋米峰と丙午出版社	星野 靖二 (國學院大) 岡田 正彦 (天理大) 岩田 真美 (龍大) 大谷 栄一 (佛教大)
	コメンテータ：赤松 徹真 (龍大) 司会：大谷 栄一 (佛教大)	

第6部会

吉田南総合館西棟 共西 23 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 信徒が教えを担う条件—日蓮宗不受不施派と入道— | 田中久美子 (福岡工業大) |
| 2. 9:25-9:45 | 天英院照姫と法華信仰—『常泉寺文書』を中心に— | 長倉 信祐 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「法華翻経後記」をめぐる諸問題 | 金 炳坤 (立正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『法華験記』にみるいわゆる「妙法経力」の諸相 | 間宮 啓壬 (身延大) |
| 5. 10:40-11:00 | 日蓮聖人における『摩訶止観』受容の問題 | 奥野 本勇 (立正大) |
| 6. 11:05-11:25 | 日蓮と預言者類型—佐渡流罪体験の意味するもの— | 笠井 正弘 |
| 7. 11:30-11:50 | 長松日扇の教化活動の一研究—曼荼羅本尊授与をめぐる— | 武田 悟一 (立正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 近世日蓮宗寺院文書にみる海上防衛と寺院—常忍寺文書を中心に— | 木村 中一 (立正大) |
| 9. 12:20-12:40 | 『立正安国論』稿了の期日について | 関戸 堯海 (立正大) |

【午後】

14:00-16:00	パネル	地域社会における慰霊顕彰の伝統と現在	代表者：孝本 貢, 6名, 120分
		地域社会と慰霊顕彰	孝本 貢 (明大)
		近世農村における慰霊顕彰	清水 克行 (明大)
		近世武士社会における慰霊顕彰	森 謙二 (茨城キリスト教大)
		沖縄における遺骨収集の展開と慰霊顕彰	粟津 賢太 (南山宗教文化研究所)
			コメンテータ：土居 浩 (ものつくり大)
			司会：村上 興匡 (大正大)

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 西田の場所的論理とカントの対象論理—妥当ということ— | 岡 廣二 (十文字高) |
| 2. 9:25-9:45 | 前期西田哲学における宗教論 | 加島 史健 (大阪明星学園) |
| 3. 9:50-10:10 | 玉城康四郎と西田哲学—晩年の手紙より— | 西元 和夫 |
| 4. 10:15-10:35 | 鈴木大拙と『大乘起信論』 | 嶋本 浩子 (宝塚造形芸術大) |
| 5. 10:40-11:00 | 西谷啓治における「近代日本」とニヒリズム | 秋富 克哉 (京都工芸繊維大) |
| 6. 11:05-11:25 | 清沢満之の内観主義 | 村山 保史 (大谷大) |
| 7. 11:30-11:50 | 斎藤茂吉の老いの諸相 | 小泉 博明 (文京学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | フリッツョフ・シュオンと井筒俊彦 | 中村廣治郎 (東大) |

【午後】

13:00-15:00	パネル	神仏分離研究の現代的意義—神仏関係史の再構築を目指して—	代表者：櫻井 治男, 6名, 120分
		近世・近代の神仏関係の位相	阪本 是丸 (國學院大)
		宗教都市宇治山田における神仏分離の諸問題	牟禮 仁 (皇學館大)
		近世における神仏関係—習合と分離—	澤 博勝 (福井県立歴史博物館)
		日本と中国における仏教と固有の宗教との交渉の比較	河野 訓 (皇學館大)
			コメンテータ：鷲見 定信 (大正大)
			司会：櫻井 治男 (皇學館大)

15:15-17:15	パネル	神仏習合・神仏分離における神職・僧侶の諸相—神仏関係史再考—	代表者：藤本 頼生, 6名, 120分
		古代・中世の神社組織における神仏関係	加瀬 直弥 (國學院大)
		賀茂別雷神社における神仏関係の構造—神主・供僧相論を中心に—	太田 直之 (國學院大)
		伊勢の神葬祭から見る神仏関係	本澤 雅史 (皇學館大)
		石川県内における神仏分離	由谷 裕哉 (小松短大)
			コメンテータ：佐藤 真人 (北九州市立大)
			司会：藤本 頼生 (神社本庁総合研究所)

第7 部会

吉田南総合館西棟 共西 11 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 親鸞の利益観について—教行信証を中心として— | 中山 彰信(九州情報大) |
| 2. 9:25-9:45 | 真宗大谷派の北海道開教に関する一考察 | 福島 栄寿(札幌大谷大) |
| 3. 9:50-10:10 | 曾我量深における信の論理—欲生心と逆対応— | 陳 敏齡(輔仁大) |
| 4. 10:15-10:35 | 近代日本における仏教と科学—真宗僧佐田介石を例として— | 常塚 聡(親鸞仏教センター) |
| 5. 10:40-11:00 | 近代真宗本願寺派教団と初期関東別院 | 野世 英水(龍大) |
| 6. 11:05-11:25 | 真宗障害者福祉における「自立」考—社会モデルを視野に入れて— | 頼尊 恒信(熊本学園大) |
| 7. 11:30-11:50 | 三願転入とカウンセリング—親鸞とC.ロジャース— | 友久 久雄(龍大) |
| 8. 11:55-12:15 | 真宗信者の宗教意識と社会的行動に関する調査 | ウーゴ・デッセイー(NCC宗教研究所) |
| 9. 12:20-12:40 | 現代社会における日本宗教とメディア | エリザベッタ・ポルク(龍大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------|------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 宗教心理と浄土真宗 | 林 智康(龍大) |
| 2. 9:25-9:45 | 初期真宗教団の原風景 | 安藤 章仁(龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 存覚における聖道門理解の一考察 | 赤井 智顕(龍大) |
| 4. 10:15-10:35 | 豊前崇廓師の教学及び行実に関する一試論 | 恵美 智生(龍大) |
| 5. 10:40-11:00 | 親鸞の「浄土」について | 加藤 智見(東京工芸大) |
| 6. 11:05-11:25 | 超越論的自覚と親鸞の「三心」釈 | 中山 一萱(京都産業大) |
| 7. 11:30-11:50 | 親鸞における「少善」について | 平原 晃宗(大谷大) |
| 8. 11:55-12:15 | 親鸞伝承の始原試考 | 御手洗隆明(真宗大谷派教学研究) |

第8 部会

吉田南総合館西棟 共西 12 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 善光寺時供養板牌における一考察 | 小林 順彦(大正大) |
| 2. 9:25-9:45 | 『宝性論』と『仏性論』—如来蔵の十義における客塵煩惱— | 末村 正代(関西大) |
| 3. 9:50-10:10 | 徳—『真言宗未決文』〈即身成仏疑〉について | 環 栄賢 |
| 4. 10:15-10:35 | 一遍教学の一試論—向俊聖との比較を中心に— | 長澤 昌幸(京都西山短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 明遍教学と静遍教学 | 那須 一雄 |
| 6. 11:05-11:25 | 「五悪段」生成に関する一試論 | 加藤 弘孝(佛教大) |
| 7. 11:30-11:50 | 一条兼良『勸修念仏記』とその時代 | 龍口 恭子(東方学院) |
| 8. 11:55-12:15 | 現代社会と浄土思想 | 五十嵐隆幸(龍大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------|---------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 臨終における光明表現再考 | 神居 文彰(佛教大) |
| 2. 9:25-9:45 | 存覚上人における来迎思想 | 平井幸太郎(龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 中世武士と一遍・時衆の周辺 | 大山 眞一(日大) |
| 4. 10:15-10:35 | 横川顯正と浄土教 | 和田 眞二(帝塚山学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 慈雲の袈裟研究と実践の意義 | 松村 薫子(国際日本文化研究センター) |
| 6. 11:05-11:25 | 仁岳における仏身論 | 金 希泰(立正大) |
| 7. 11:30-11:50 | 慈信房善鸞上人義絶問題について | 藤井 淳(国際日本文化研究センター) |

第9 部会

吉田南1号館 1 共 21 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 史的ダルマ論の試み—生没年の秘密— | 宮村 重徳 (法大) |
| 2. 9:25-9:45 | 起塔を通した永遠の釈尊の感得—『法華経』のブツダ観— | 鈴木 隆泰 (山口県立大) |
| 3. 9:50-10:10 | 『大毘婆沙論』成立の諸問題 | 三友 健容 (立正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『阿毘曇心論』業品における三障の軽重について | 智谷 公和 (相愛大) |
| 5. 10:40-11:00 | 『中論』の空性理論における矢島羊吉博士の理解について | 木村 俊彦 (四天王寺大) |
| 6. 11:05-11:25 | 受戒態度に於ける仏伝 | 龍口 明生 (龍大) |
| 7. 11:30-11:50 | 吉蔵と『撰大乘論』 | 藤野 泰二 (立正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 『十地経』における第九地の位置について | 平賀由美子 (高野山大) |
| 9. 12:20-12:40 | 浄土の教えの極まるどころ—『無量寿経』による— | 前田 惠學 (愛知学院大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 日本律蔵関係章疏にみられる朝鮮仏教認識について | 福士 慈稔 (身延山大) |
| 2. 9:25-9:45 | 華嚴思想における理と事—プラトニズムを見る— | 宮野 升宏 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 鎌倉長谷寺出土写経骨の思想背景—武士と供養の視点から— | 立花 弥生 (東方研究会) |
| 4. 10:15-10:35 | 日本中世の寄進状について | 稲城 正己 (京都文教大) |
| 5. 10:40-11:00 | 日本近世初期における仏教支援ネットワークについて | 高井 恭子 (愛知学院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 近代ドイツ宗教思潮における仏教—ベックを一事例として— | 春近 敬 (大正大) |
| 7. 11:30-11:50 | 吉田兼好の死生観 | 新保 哲 (文化女子大) |

第10 部会

吉田南総合館西棟 共西 01 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00-9:20 | キリスト教とグローカリゼーション—南インドを事例にして— | 岡光 信子 (東北大) |
| 2. 9:25-9:45 | ビシュワスという信じ方—ネパールのキリスト教における信念— | 丹羽 充 (一橋大) |
| 3. 9:50-10:10 | 転換期仏教寺院における活動—イメージ戦略と感情労働の間— | 高橋 嘉代 (福島学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | パンニャーサジャータカ研究の意義 | 茨田 通俊 (東方研究会) |
| 5. 10:40-11:00 | マハトマ・ガンディーと藤井日達 | 外川 昌彦 (広島大) |
| 6. 11:05-11:25 | 日本近代仏教と生命主義的思考についての一考察 | 山本栄美子 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | 渡辺海旭をめぐる社会事業と仏教の関係性について | 菊池 結 (大正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 仏教思想に基づくケア論の展開 | 坂井 祐円 (南山宗教文化研究所) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 大正期の仏教教化をめぐる | 熊本 英人 (駒大) |
| 2. 9:25-9:45 | 近代日本における大学制度と僧侶育成に関する一考察 | 江島 尚俊 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 祈祷寺院における信者獲得と固定化 | 阿部 友紀 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | 心会と教祖熊崎健翁—教団本部における資料調査から— | 下村 育世 (一橋大) |
| 5. 10:40-11:00 | 「みかぐらうた」のひのきしん | 堀内みどり (天理大) |
| 6. 11:05-11:25 | 天理教原典Ⅲにおける「かしの・かりもの」の理 | 澤井 一郎 (天理教校研究所) |
| 7. 11:30-11:50 | 戦後台湾における生長の家の受容層の変遷 | 寺田 喜朗 (鈴鹿短大) |
| 8. 11:55-12:15 | 教団変革期における体験談の変容—世界救世教を事例として— | 武井 順介 (立正大) |

第 11 部会

吉田南総合館西棟 共西 02 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------|----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 旅順博物館所蔵の漢文無量寿経写本 | 三谷 真澄 (龍大) |
| 2. 9:25-9:45 | 『医心方』と『外台秘要方』 | 多田 伊織 (皇學館大) |
| 3. 9:50-10:10 | 中国における「維摩詰」語釈の変遷 | 山口 弘江 (金剛大) |
| 4. 10:15-10:35 | 中国における菩薩戒について | 久田 静隆 (愛知学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 雑誌 Cem に見る現代「アレヴィー」思想の変化 | 佐島 隆 (大阪国際大) |
| 6. 11:05-11:25 | 少数派フィクフの理論と論客—イスラーム法の新潮流— | 松山 洋平 (東京外国語大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「俗人」説教師の活躍とイスラームにおける権威の問題 | 八木久美子 (東京外国語大) |
| 8. 11:55-12:15 | ジュナイド神秘主義におけるファナー論 | 澤井 真 (東北大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 仏教儀礼論の可能性—カッシーラー、アサドを手掛かりに— | 小野 真 (相愛大) |
| 2. 9:25-9:45 | カトリック神学と経済学—金融危機と教皇の新しい回勅— | ハンス=ヨアヒム・ペピン (大阪府立大) |
| 3. 9:50-10:10 | ヴェーバーテーゼと生命主義的救済観像—橋田理論の再来か— | 池田 昭 |
| 4. 10:15-10:35 | 主権論における“日本的系譜”の可能性について | 田中 悟 (神戸大) |
| 5. 10:40-11:00 | チベットに伝わったスマーガダー・アヴァダーナ | 梶濱 亮俊 (摂南大) |
| 6. 11:05-11:25 | 『プラサンナパダー』に引用される『八千頌般若経』 | 庄司 史生 (立正大) |
| 7. 11:30-11:50 | サティエをめぐる語りの重層性 | 田中 鉄也 (関西大) |
| 8. 11:55-12:15 | インド民衆神話における救済—カルキ・ブラーナを事例として— | 渡邊たまき (筑波大) |

第 12 部会

吉田南総合館西棟 共西 03 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 瓦に見る水のモチーフ | 春日井眞英 (東海学園大) |
| 2. 9:25-9:45 | 白南準における禅—その作品から— | 榎本 香織 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 近代思想における児童文学の宗教性 | 大澤千恵子 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | ブルターニュにおける図像と宗教性—現代的展開事例から— | 中島和歌子 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 柳宗悦の自然観 | 本多 亮 (大正大) |
| 6. 11:05-11:25 | 中世禅宗寺院の伽藍空間における宋代風水術の影響について | 鈴木 一馨 (東方研究会) |
| 7. 11:30-11:50 | 迷信・呪術・魔術—西欧近世の魔女言説から— | 黒川 正剛 (太成学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | Th. マン文学における「敬虔」の問題 | 掛川 富康 (茨城キリスト教大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 神道思想のパラダイム—デルマー・ブラウンの説をめぐる— | 原 真和 (関西学院聖和短大) |
| 2. 9:25-9:45 | 近世中期における還俗僧と「神道」 | 井関 大介 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 久我長道撰『八幡講式』をめぐる—中世八幡信仰の一側面— | 船田 淳一 (佛教大) |
| 4. 10:15-10:35 | 近世日本における宗廟観 | 井上 智勝 (大阪歴史博物館) |
| 5. 10:40-11:00 | 近代神社祭式の成立—開放された神社の儀礼— | 竹内 雅之 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 内務省神社局と神社調査 | 遠藤 潤 (國學院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 内務官僚の神社観とその系譜—社会事業との関わりをなかで— | 藤本 頼生 (神社本庁総合研究所) |

第13 部会

吉田南1号館 1 共 31 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 江戸中期の戯作者・大江文坡の仙教—道教との関連で— | 坂出 祥伸 (森ノ宮医療大) |
| 2. 9:25-9:45 | 道教の瞑想における光のシンボリズム—『太乙金華宗旨』の場合— | 長澤 志穂 (南山宗教文化研究所) |
| 3. 9:50-10:10 | 平田国学における体験的幽冥研究の展開 | 宇野 功一 (放送大) |
| 4. 10:15-10:35 | 廃仏論の根拠としての海外情報—平田篤胤の事例を中心に— | 森 和也 (東方研究会) |
| 5. 10:40-11:00 | 淵岡山より見た藤樹の思想「良知・孝」 | 鈴木 保實 (愛知県立熱田高) |
| 6. 11:05-11:25 | 神道思想における生命主義的救済観 | 鈴木 一彦 (國學院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 弘道館とその祭神—会沢神学の構造— | 桐原 健真 (東北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 神祇伯白川家における鎮魂祭 | 山口 剛史 (皇學館大) |
| 9. 12:20-12:40 | 北野天満宮瑞饋祭についての—考察—宗教儀礼の展開を中心に— | 吉野 亨 (國學院大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 狩猟民の神話と世界観—〈動物の主〉再考— | 山田 仁史 (東北大) |
| 2. 9:25-9:45 | 古代北欧社会における知の復讐—主としてサガを通して— | 中里 巧 (東洋大) |
| 3. 9:50-10:10 | 19世紀神話学とチェンバレン | 平藤喜久子 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | ユングの思想における倫理 | 杉岡 正敏 (京都造形芸術大) |
| 5. 10:40-11:00 | 世界神話学と世界宗教史 | 松村 一男 (和光大) |
| 6. 11:05-11:25 | ジュリア・クリステヴァにおける「抑圧」と「聖なるもの」 | 斎藤 喬 (東北大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「心理臨床科学」の宗教—故河合隼雄の〈かたり〉— | 戸田 游晏 (阪大) |
| 8. 11:55-12:15 | 近年心理学理論における死と宗教—恐怖管理理論について— | イーリヤ・ムスリン (東大) |

第14 部会

吉田南1号館 1 共 32 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00-9:20 | アニメ聖地巡礼にみるパフォーマンス | デール・アンドリュース (金沢大) |
| 2. 9:25-9:45 | 現代巡礼における死の位相—スペイン・サンティアゴ巡礼の事例— | 岡本 亮輔 (筑波大) |
| 3. 9:50-10:10 | 聖地旅行をめぐる「支え合い」の歴史—高齢者・障がい者の事例— | 板井 正斉 (皇學館大) |
| 4. 10:15-10:35 | 身延山参詣記にみる巡拝寺院について | 望月 真澄 (身延山大) |
| 5. 10:40-11:00 | 仏教教団と講集団の関わり—四国遍路の事例から— | 栗田 英彦 (東北大) |
| 6. 11:05-11:25 | 供養と観想としての飲食—古今の南アジア密教における飲食実践— | 杉木 恒彦 (早大) |
| 7. 11:30-11:50 | モルディブの仏教について—カーシドウ島— | 原 隆政 |
| 8. 11:55-12:15 | アウグスティヌス時代のマニ教徒の自己理解について | 山田庄太郎 (筑波大) |
| 9. 12:20-12:40 | メソポタミアの「呪術師」 | 渡辺 和子 (東洋英和女学院大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 戦間期ハワイ日系宗教と2つのナショナリズム | 高橋 典史 (宗教情報リサーチセンター) |
| 2. 9:25-9:45 | 総力戦体制下における信仰と戦争—「日本基督教」を中心に— | 川口 葉子 (阪大) |
| 3. 9:50-10:10 | 日本の新宗教における国家観・天皇観と実践—解脱会の事例から— | 塚田 穂高 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 無縁遺骨と恨 (はん) —被徴用者等の遺骨調査から— | 工藤 英勝 (曹洞宗宗務庁) |
| 5. 10:40-11:00 | 明治初期における教導職の「敬神愛国」観 | 藤田 大誠 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 「特高教本」におけるナショナリズム | 小島 伸之 (上越教育大) |
| 7. 11:30-11:50 | 靖国をめぐる論議—日本における政教分離概念をめぐる— | 丹羽 泉 (東京外国語大) |
| 8. 11:55-12:15 | 新宗教のナショナリズムと敗戦の神義論 | 對馬 路人 (関西学院大) |

第 15 部会

吉田南1号館 1 共 33 教室

12日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00-9:20 | 沖縄宮古島北部の祭祀儀礼について | 川田 桂 (名大) |
| 2. 9:25-9:45 | 宗教的職能者の選択—現代沖縄の死者儀礼を事例として— | 越智 郁乃 (広島大) |
| 3. 9:50-10:10 | 琉球の最高神女・間得大君の神馬について | 坂本直乙子 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 戦後沖縄の火葬—那覇若狭町、辻原の墓地整理をめぐって— | 加藤 正春 (ノートルダム清心女子大) |
| 5. 10:40-11:00 | 里修験と陰陽道—進出の『篋篋』の分析を中心に— | 小池 淳一 (国立歴史民俗博物館) |
| 6. 11:05-11:25 | ト占における宗教的職能者の関与について—粥占を事例として— | 亀崎 敦司 (九大) |
| 7. 11:30-11:50 | 受動性のアニミズム—環境認識論の再考— | 長谷千代子 (南山宗教文化研究所) |
| 8. 11:55-12:15 | 御霊信仰の展開過程 | 米井 輝圭 (昭和女子大) |
| 9. 12:20-12:40 | ト占技術から思索・信仰・実証科学への展開 | 平野 孝國 (新潟大) |

13日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 「霊場」における死者供養の具体相—秩父観音霊場を事例として— | 徳野 崇行 (駒大) |
| 2. 9:25-9:45 | 検証／顕彰される来歴—墓地の近代をめぐって— | 土居 浩 (ものつくり大) |
| 3. 9:50-10:10 | 韓国・円仏教の死者儀礼—全羅南道珍島の事例から— | 川上 新二 (駒大) |
| 4. 10:15-10:35 | 民族学校と祖先祭祀 | 田島 忠篤 (天使大) |
| 5. 10:40-11:00 | 日本民間神楽の「白い布」 | 三村 泰臣 (広島工業大) |
| 6. 11:05-11:25 | 薪能の興行形式にみる宗教性 | 永原 順子 (高知工業高専) |
| 7. 11:30-11:50 | 江戸・明治期の随筆類における富士信仰 | 大谷 正幸 |
| 8. 11:55-12:15 | 鎌倉時代の夢信仰の一断面—沙石集を中心として— | 河東 仁 (立教大) |

第 16 部会

吉田南総合館西棟 共西 31 教室

12 日 (土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------|
| 1. 9:00-9:20 | Oxford Group Movement の活動と影響 | 葛西 賢太 (宗教情報センター) |
| 2. 9:25-9:45 | 西田天香の宗教教育論 | 河村 新吾 (広島大) |
| 3. 9:50-10:10 | 接触領域としてのオリシャ崇拝—アメリカ黒人の社会宗教運動— | 小池 郁子 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | カルティニにおける「新しい時代」の人間像 | 相澤 里沙 (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 | シンガポールの国民統合と宗教間対話 | 山下 博司 (東北大) |
| 6. 11:05-11:25 | 文化としての宗教—ドイツにおける宗教シンボル禁止法論争から— | 堀 彩子 (一橋大) |
| 7. 11:30-11:50 | 多文化共生—不況の中の大泉— | 野村 誠 (共愛学園前橋国際大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教間対話を支えるものとしての求道性—東西霊性交流の場合— | 峯岸 正典 |
| 9. 12:20-12:40 | 21 世紀宗教間対話の潮流—各対話指針の比較から— | 山梨有希子 (大正大) |

【午後】

パネル	死者供養文化の深層	代表者：池上 良正, 6 名, 120 分
14:00-16:00	ヒトガミの誕生—日本列島における死者供養の淵源— 石塔の思想史—五輪塔を中心に— 実験動物供養の起こりと展開について 現代韓国における死者供養の変化についての社会学的考察	佐藤 弘夫 (東北大) 松尾 剛次 (山形大) 岡田真美子 (兵庫県立大)
	コメンテータ：中村 生雄 (学習院大)	井上 治代 (東洋大)
	司会：池上 良正 (駒大)	

13 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 宗教的生命倫理は可能か?—エンゲルハートを手掛りに— | 村上 喜良 (立正大) |
| 2. 9:25-9:45 | 日本の大学における「生と死の教育」の可能性 | 冲永 隆子 (帝京大) |
| 3. 9:50-10:10 | 中有縁起と現代的いのち | 金 永晃 (大正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 「縁起」の倫理学は可能か—仏教的生命倫理学の原理をめぐって— | 前川 健一 (東洋哲学研究所) |
| 5. 10:40-11:00 | 再生医療と生命倫理 | 淵上 恭子 |
| 6. 11:05-11:25 | 宗教ツーリズムの生成と課題 | 松井 圭介 (筑波大) |
| 7. 11:30-11:50 | 環境法に関する一考察 | 太田 俊明 |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教史跡の観光資源化—沖縄県南城市の地域振興政策を事例に— | 吉野 航一 (北大) |

【午後】

パネル	宗教間対話の思想—歴史的諸相とそれらの対話—	代表者：八巻 和彦, 6 名, 120 分
13:00-15:00	ノージャンのギベールとイスラーム ラテン人への憎悪を超える—ベッコスの転向について— 近世初頭における「異教」との邂逅—ピコの場合の意義と限界— 西欧における仏教理解—認知科学におけるその可能性と問題点— イスラームにおける宗教間対話の理論	矢内 義顕 (早大) 橋川 裕之 (静岡県立大) 比留間亮平 (東大) 司馬 春英 (大正大) 松本 耿郎 (聖トマス大)
	コメンテータ・司会：八巻 和彦 (早大)	

パネル	宗教とエコ・フィロソフィー—東洋の宗教伝統を中心として—	代表者：渡辺 章悟, 6 名, 120 分
15:15-17:15	ヒンドゥー聖地と環境問題 中世ヒンドゥー教にみる『地上の天界』説と環境倫理 輪廻と環境—インド仏教の自然観再考— 日本仏教とエコ・フィロソフィー 天人相関の理論と実践—風水と煉丹術—	宮本 久義 (東洋大) 橋本 泰元 (東洋大) 渡辺 章悟 (東洋大) 竹村 牧男 (東洋大) 野村 英登 (東洋大)
	コメンテータ・司会：吉田 公平 (東洋大)	

第 17 部会

吉田南総合館西棟 共西 32 教室

12 日 (土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 子育て支援活動におけるスピリチュアリティの働き | 井上ウィマラ (高野山大) |
| 2. 9:25-9:45 | 医療・福祉現場における〈ビハーラ僧〉の現代的役割について | 打本 弘祐 |
| 3. 9:50-10:10 | 現代の「お迎え」現象と聖衆来迎一仏を迎えるトレーニング | 大村 哲夫 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | インターネット開発思想と宗教的共同性の邂逅 | 今井 信治 (筑波大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教の社会貢献の領域と形態 | 稲場 圭信 (神戸大) |
| 6. 11:05-11:25 | 社会的宗教と他界的宗教への序章—ケン・ウィルバー論から— | 津城 寛文 (筑波大) |
| 7. 11:30-11:50 | 現象学的社会学における超越概念 | 諸岡 了介 (島根大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教とグローバル化—ウルリッヒ・ベックの世俗化論— | 上村 岳生 (東大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|-------------------------------|-----------------------|
| パネル | ジェンダー宗教学の確立に向けて | 代表者：黒木 雅子, 6 名, 120 分 |
| 14:00-16:00 | ジェンダー宗教学の可能性—現場と理論のはざまから— | 川橋 範子 (名古屋工業大) |
| | イスラーム言説の利用と法識字—女性説教師を事例として— | 嶺崎 寛子 (日本学術振興会) |
| | アジアにおけるキリスト教と脱植民地主義の課題 | 香山 洋人 (立教大) |
| | はざまの位置で—アジア系アメリカ人フェミニスト神学の試み— | 黒木 雅子 (京都学園大) |
| | | コメンテータ：田中 雅一 (京大) |
| | | 司会：小松加代子 (多摩大) |

13 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 9:00-9:20 | 宗教と博覧の近代史—社会貢献の視点から— | 濱田 陽 (帝京大) |
| 2. 9:25-9:45 | 宗教の社会貢献活動についての運動論的視座 | 寺沢 重法 (北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 養護教諭と子供達との人間関係—M ブーバーを手がかりに— | 河西多津子 |
| 4. 10:15-10:35 | 近代日本における「宗教的情操」教育—教育論争史からの一考察— | 齋藤 知明 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教文化教育と宗教情操教育の相違点 | 井上 順孝 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 宗教科指導要領にみるドイツの宗教教育 | 石川 智子 (立教大) |
| 7. 11:30-11:50 | 国語教科書にみるインドの公教育の宗教的要素 | 澤田 彰宏 (大正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 川崎市田島小学校における神道教育事例の考察—山崎博を中心に— | 中道 豪 (國學院大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------|-----------------------|
| パネル | 教祖伝の脱構築 | 代表者：幡鎌 一弘, 5 名, 120 分 |
| 13:00-15:00 | 記憶・ナラティブ・教祖伝 | 宮本要太郎 (関西大) |
| | 新宗教文化の脱教团的展開—思想としての教祖研究— | 永岡 崇 (阪大) |
| | 稿本天理教教祖伝の成立 | 幡鎌 一弘 (天理大) |
| | 教祖像の力学—金光教の教祖探求から— | 竹部 弘 (金光教教学研究所) |
| | | コメンテータ・司会：堀内みどり (天理大) |

- | | | |
|-------------|--------------------------------|----------------------|
| パネル | 思想としての禅—近現代における道元の発見— | 代表者：何 燕生, 4 名, 100 分 |
| 15:15-16:55 | 諸仏諸祖は道得なり—和辻哲郎の道元哲学— | ラルフ・ミュラー (フンボルト大) |
| | 無常仏性を基盤とするヒューマニズム—道元思想から現代哲学へ— | ゲレオン・コプフ (ルーサー大) |
| | 中国語圏における道元の発見 | 何 燕生 (郡山女子大) |
| | | コメンテータ・司会：石井 修道 (駒大) |

レジュメの作成と提出の注意

『宗教研究』への掲載は、大会最終日までに「レジュメの紙原稿と表紙」を提出された方に限ります。必ず、21頁の表紙・本文の順にホチキスでとめ、フロッピーディスク（FD）を提出される方は、FDを添えて、部会責任者にお渡し下さい。

【締切】 大会最終日（9月13日）各部会終了時 以後の提出、訂正は一切受け付けません。

【枚数】 パソコン原稿（縦書き）——1行40字×40行以内。 総文字数ではありません。
超過している場合は掲載できません。以下の書式をお守り下さい。

[パソコン原稿の書式] 用紙：A4横置き 設定：縦書き 1行40字×40行
文字サイズ：一律 10.5ポイント 邦文のフォント：MS明朝
・1頁目——発表題目、発表者名、欧文タイトル、発表者のローマ字表記 を入力
・2頁目——本文 を入力
手書きは、400字詰原稿用紙4枚以内（但し、当方でパソコンに入力し、40字×40行以内）

【題目】 プログラムの記載と同一

【本文】 縦書き。邦文中の数字は、漢数字にして下さい。『宗教研究』は縦組みです。
常用漢字、現代仮名づかいを用いて下さい。図表等は掲載できません。
手書きは1マスに1字（欧文は1マスに2字）、欧文のイタリックは下線で指示して下さい。

【欧文タイトル】 英語——邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。
英語以外の言語——発表者が提出したタイトル通りに掲載します。

電子データ提出方法

紙原稿の他に、電子データ（表紙と本文の両方）もご提出下さい。
この場合も、必ず大会最終日までに、所定の表紙を付して、紙の形でご提出下さい。
メールによる電子データの送信のみでは、掲載不可です。

①大会当日に、レジュメと一緒にFDを提出される場合

FDのラベルに、氏名と「OS名・ソフト名（例：Windows・ワード）」を明記して下さい。
FDは校正刷りと一緒に返却します。

②Eメールで送信する場合

送信先：日本宗教学会事務局 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp
9月18日（金）までに、Windows のワード・一太郎は添付ファイルで、それ以外はメールに
貼り付けて、お送り下さい。 受付開始：8月20日
メールの件名は、「レジュメ 発表者の御名前」として下さい。例：レジュメ 鈴木花子

『宗教研究』編集委員会

レジュメの表紙 (すべての項目に記入して下さい。)

発表題目 縦書き。題目の初めに読めるようにしてください。ローマ字記号の題目は区 | リットルで。

発表者名 縦書き

欧文タイトル 活字体。イタリックは下線で指示して下さい。

発表者名のローマ字表記 例：鈴木花子 → SUZUKI Hanako

電子データの種類について 以下に○をつけて下さい。

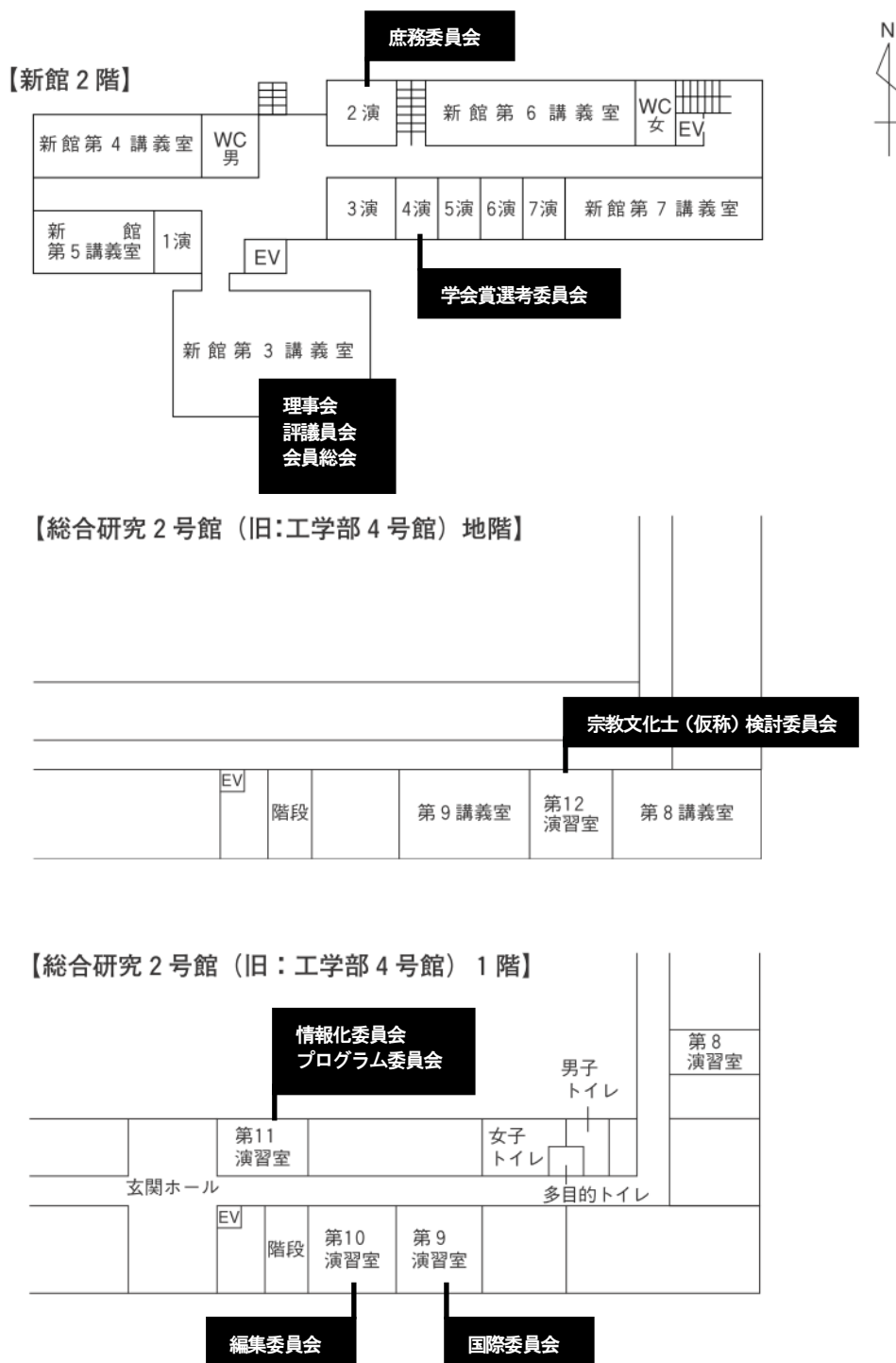
- 1 フロッピーディスク (会場の手渡し)
- 2 Eメール (送信済み / 9月18日までに送信)

※ レジュメの表紙は、大会ホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/jars2009>) からダウンロードできます。

※ 特殊文字は、プリントアウトしたものに、赤字を入れて下さい。

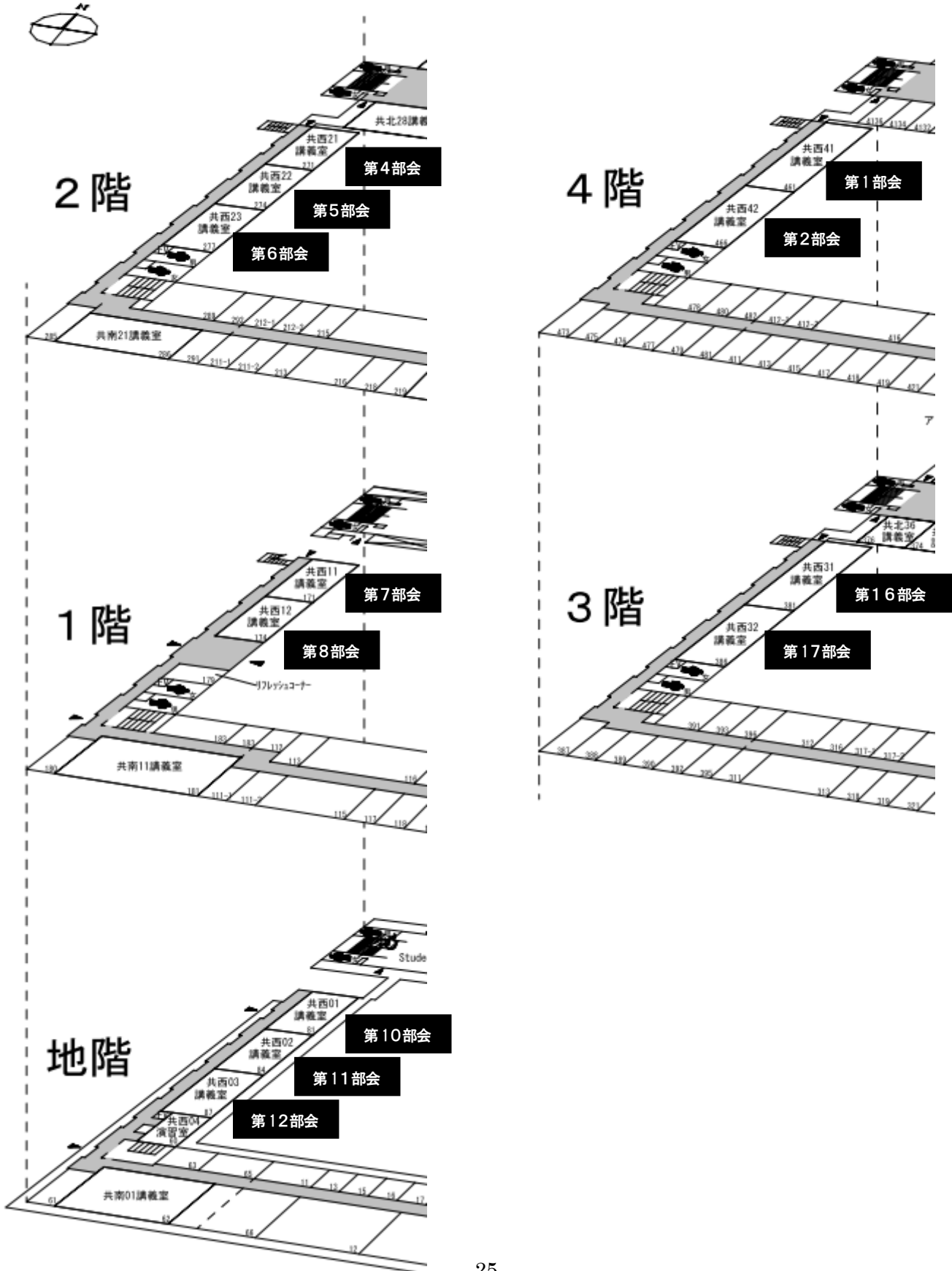
日本宗教学会 第 68 回学術大会

文学部新館・総合研究 2 号館 会場配置図



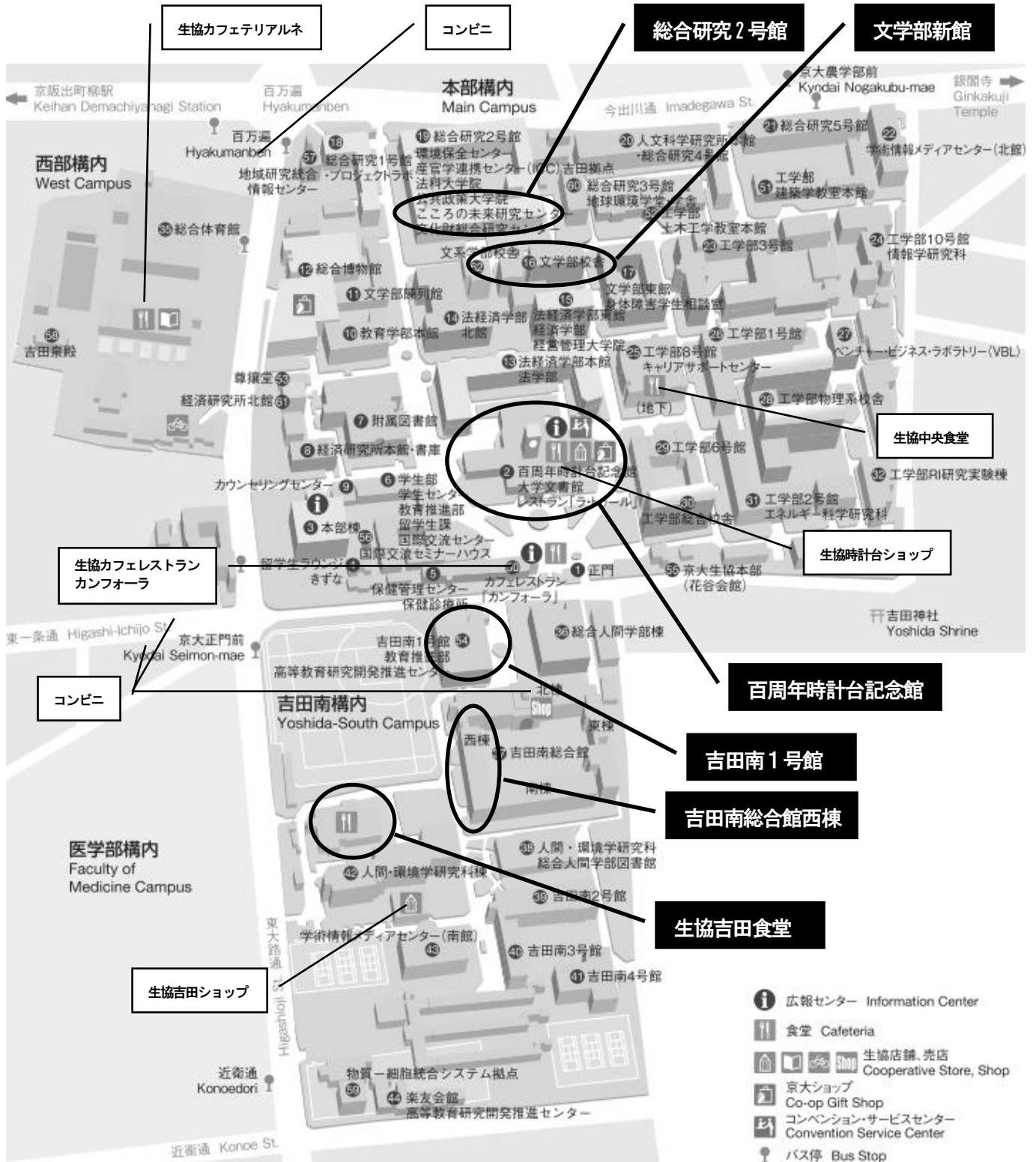
日本宗教学会 第68回学術大会

吉田南総合館西棟 会場配置図



日本宗教学会 第68回学術大会

京都大学 構内図



交通案内



- 京都駅からの交通費
 - ・ タクシー：JR 京都駅から約 20 分・約 1,800 円
 - ・ 京都市バス：220 円
- 京都市内主要駅からの交通案内

主要鉄道駅	乗車バス停	下車バス停
JR・近鉄 京都駅	京都市バス京都駅前	206 系統(「東山通 北大路バスターミナル」行) 「京大正門前」又は「百万遍」
		17 系統(「河原町通 錦林車庫」行) 「百万遍」
阪急河原町駅	京都市バス四条河原町	201 系統(「百万遍 祇園」行) 「京大正門前」又は「百万遍」
		203 系統「百万遍」
京阪出町柳駅	京都市バス出町柳駅前	201 系統(「祇園 みぶ」行) 「京大正門前」又は「百万遍」
		17 系統(「錦林車庫」行) 「百万遍」
	徒歩 (東へ)	
地下鉄烏丸線 今出川駅	京都市バス烏丸今出川	201 系統「京大正門前」又は「百万遍」 203 系統「百万遍」
地下鉄東西線 東山駅	京都市バス東山三条	201 系統(「百万遍 千本今出川」行), 206 系統(「高野 千本北大路」行), 31 系統(「修学院 岩倉」行) 「京大正門前」又は「百万遍」

※ 自動車の入構制限を行っておりますので、車でのお越しは御遠慮ください。
各構内門扉には開閉時間がそれぞれにありますので、お気をつけください。